



# 寄附型CF(クラウドファンディング)を活用した地域づくりに参加しませんか？

多くの皆様のご支援をお待ちしています！

VRで復元！

## 渋谷を拓いた実業家 五島慶太の生家復活プロジェクト

目標額 350万円



### プロジェクト発足の経緯

青木村の先人、五島慶太翁は、類まれなる経営手腕で東急グループの礎を築き上げた実業家であり、多くの大学への支援を惜しまなかった教育者でした。まさに「未来を見据え 都市を拓き 人を育てた」郷土の偉人です。その慶太翁を育んだ生家は、150年以上前に建てられたもので、青木村の気候風土にマッチした趣で、村の貴重な誇りでもありました。

ところが平成30年8月14日(奇しくも慶太翁の命日)に落雷の被害により、残念ながら解体されてしまいました。

最新のVR(ヴァーチャルリアリティ)技術で、かつてあった古き良き姿を再現し、もう一度多くの皆さんに紹介したいと願っています。

皆さんの力で再現される生家は、今後、決して色あせることなく、青木村の魅力を映し出し続けてくれることでしょう。



### 寄附募集期間

2019年4月18日(慶太翁の生誕日)  
から約3ヶ月間

寄附金は一口5,000円から

寄附の方法は、青木村ホームページをご覧ください

検索

青木村

<http://www.vill.aoki.nagano.jp/>

### 寄附いただいた方には

特典1

5千円以上の方

解体した生家の部材で作成したキーホルダーをプレゼント(数量限定)

特典2

1万円以上の方  
特典1に加えて

寄附者名簿を作成し、建設予定の「五島慶太未来創造館(仮称)」に掲示させていただきます。



キーホルダーイメージ



再現する往年の生家



～青木の先人、五島慶太翁 没後 60 年～  
「誇らしきわが郷土」

五島慶太翁 77年のあゆみ

1882年（明治15年）

小林家の次男として4月18日青木村殿戸に生まれる。  
（父、小林菊右衛門 母、小林 寿彦）

1895年（明治28年）13歳

長野県尋常中学校上田支高（現上田高校）に入学。

1900年（明治33年）18歳

松本中学校卒業後、恩師小林直次郎の紹介で青木村小学校の代用教員になる。

1902年（明治35年）20歳

東京高等師範学校（現、筑波大学）の入学試験に合格し、英文科に入学。  
この学校の校長で嘉納治五郎（柔術を「柔道」へ発展させ講道館をつくった人）に  
出会い大きな影響を受けた。

1906年（明治39年）24歳

東京師範学校卒業後、三重県立四日市商業学校の英語教師になる。

1907年（明治40年）25歳

東京帝国大学（現、東京大学）に入学。  
学生時代は、寸暇を惜しんで勉強に励んだ。

1911年（明治44年）29歳

東京帝国大学卒業後、農商務省に入省、官僚になる。

1912年（明治45年）30歳

久米民之助氏（工学博士で二重橋の設計者）の長女、万千代と結婚。  
久米家の懇望で、久米家の祖母の五島家（元上州沼田藩藩士の家）を継ぎ、五島慶  
太になる。

1913年（大正2年）31歳

鉄道院に転属。長野県では飯山線の鉄道建設に尽力し、  
飯山市では昭和35年に「五島慶太翁碑」を飯山駅前に建立。

1920年（大正9年）38歳

鉄道省を退官。

1922年（大正11年）40歳

目黒蒲田電鉄を設立、専務取締役役に就任。

1939年（昭和14年）57歳

東横商業女学校開校。五島慶太の育英事業の第一歩。  
昭和30年には、学校法人五島育英会を設立。

1942年（昭和17年）60歳

東京急行電鉄(株)取締役社長に就任。

1944年（昭和19年）62歳

運輸通信大臣に就任（東京急行電鉄(株)取締役社長を辞任）。  
終戦後GHQ（連合軍最高司令部）により公職追放。

1952年（昭和27年）70歳

東京急行電鉄(株)取締役会長に就任。

1955年（昭和30年）73歳

大東急記念文庫を開館し、一般公開。

1958年（昭和33年）76歳

ふるさと、青木村殿戸地区に公民館を寄付。  
公民館は建て替えられたが、敷地には  
五島慶太の胸像が残っている。

1959年（昭和34年）77歳

8月14日逝去。



▲五島慶太 生家



▲松本  
中学時代  
の慶太



▲四日市商業学校では  
1年間教鞭をとった



▲大正2年に農務省から  
鉄道院に転じた



▲明治  
45年2月、万千代夫人  
との結婚記念写真



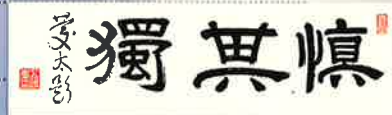
▲飯山駅「五島慶太翁碑」



▲鉄道敷設と併せて多くの大学を  
誘致した



▲昭和19年2月19日  
戦時内閣運輸通信大臣就任



▲昭和20年頃揮毫「そのひとりをつつむ」



▲昭和31年4月揮毫  
「以和為貴(わをもってとうとしとなす)」